6 月 5 日のメッセージ

聖書：使徒言行録　2：　1 – 11

「聖霊に満たされ」

イエスが安心と喜びの内に天に昇られた後、弟子たちはエルサレムに留まって「その時」を待っていました。もちろん、ただ何もせずに過ごしていたわけではありません。

十字架と復活の出来事の間に弟子たちは大きな痛みを抱えていました。十二使徒の一人であったユダを失い、活動に支障が生じていました。そこで、改めて指導者の一人としてマティアを選出します(「……二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。」使徒言行録 1:12-26)。そして、再びイエスの復活について、福音について告げ知らせていたのです。自分たちにできる精一杯を果たそうとしていました。

懸命に「今」を生きる弟子たちに、聖霊が降ります(「五旬祭の日が来て、……炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊” が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話だした。」使徒言行録 2:1-4)。

かつて神は、荒れ野を 40 年間旅したイスラエルを約束の地に導かれました。ところが、最初の指導者であり、神の言葉を取り次ぐ大切な役割を託されていたモーセは、神の言葉通り、約束の地に入る直前に召されてしまいます(「主の僕モーセは、主の命令によってモアブの地で死んだ。」申命記 34:5)。偉大な指導者を失った不安があったことでしょう。

それでもなお、イスラエルの人々は懸命に生きようとします。そのようなイスラエルの人々に道が示されるのです。残された指導者ヨシュアに神は約束されます。「あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」(ヨシュア記 1:9)と。

今、弟子たちに注がれた聖霊もまた、同じことを告げたはずです。安心と喜びに包まれて弟子たちは、一層力強く福音を語ったことでしょう。

ただ、その状況を素直に受け取れず、不安に思う者がいたのも確かです(「人々は驚き怪しんで言った。『話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。』」使徒言行録 2:7)。聖霊の働きを、神の力をにわかには信じられず、疑う者もあったことでしょう(「エルサレムから下って来た律法学者たちも、『あの男はベルゼブルに取りつかれている』と言い、また、『悪霊の頭の力で悪霊を追い出している』と言っていた。」マルコによる福音書 3:22)。

イエスはそのような者に対して、厳しい態度を取られました(「しかし、聖霊を冒涜する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」マルコによる福音書 3:29)。福音の厳しさをも教える方でした。

しかし、今、聖霊は疑いをもつ者たちにも、不安を覚える者たちにも福音を告げ知らせられます。しかも、それぞれにわかるように、それぞれの言葉で、寄り添うように告げられるのです(「ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」使徒言行録 2:11)

今、この時、弟子たちと同様、私たちにも聖霊が豊かに注がれています。聖霊は私たちに喜びの知らせを告げます。私たちは喜びで満たされています。ならば、私たちの口から出るのは他者を貶める言葉でもなければ、呪いの言葉でもなく、喜びの言葉、祝福の言葉が溢れ出てくることでしょう(「わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。『あなたのうちに平和があるように。』」詩編 122:8)。

厳しい状況が続く今だからこそ、私たちの内に満ちる聖霊の力を再認識して、平和と平安を祈る私たちでありたい。心から願います。